

## (25) 山口県 調査年：1999年

### ● 県下の海岸状況

海岸延長距離	1427.30km	うち島嶼域	665.29km
自然海岸砂浜	181.52km	うち島嶼域	111.93km
半自然海岸砂浜	63.71km	うち島嶼域	37.98km
産卵海岸の合計	245.23km	うち島嶼域	149.91km

日本海側	402.60km	瀬戸内海側	891.95km	下関市	132.75km
自然海岸砂浜	44.49km		117.66km		19.37km
半自然海岸砂浜	12.11km		46.45km		5.15km
産卵海岸の合計	56.60km		164.11km		24.52km

### ● 上陸・産卵砂浜実績調査

産卵地区数 2区 産卵海岸数 3 産卵海岸距離 1.75km

#### 1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

山口県下ではウミガメ類の分布等の状況を把握するため、県内 88 の漁業協同組合にアンケート調査を実施し、44 の漁業共同組合から回答を得た。また、関係大学、水族館、博物館等に聞き取り調査及び文献調査等を実施した。なお、漁業協同組合において回答が得られなかった地域については、現地聞き取り調査及び関係行政機関所有の文献等の有無を確認し、情報の偏りがないようにした。

県内の上陸及び産卵状況を表 165 に示す。表で示したとおり、最近の上陸及び産卵情報は全くない。県内の海岸長は 1427.30km で、ウミガメ類が産卵可能と思われる海岸は 245.23km(17.2%) 存在する。日本海側に 56.60km(4.0%)、瀬戸内海側に 164.11km(11.5%)、両方にまたがる下関市に 24.52km(1.7%) ある。しかし、かつてウミガメ類の産卵を確認できた海岸長は 2区 3海岸の 1.75km(0.7%) に過ぎない。調査地区 1/田無手浜と小浜は日本海側の角島(豊北町)にある。調査地区 2/油谷町は豊北町の北に位置する。両町は山口県の北西端にあたる。

表 165. 山口県におけるアカウミガメの上陸及び産卵状況

調査区	海岸名	上陸数	産卵数	市町村	備考
1	田無手浜	不明	不明	豊北町角島	昭和 40 年頃上陸・産卵があった
1	小浜	不明	不明	豊北町角島	昭和 40 年頃上陸・産卵があった
2	大浜	不明	不明	油谷町	時期は不明だが、上陸・産卵があった

#### 2) 脱出状況調査

記録なし。

### 3) 漂着・漂流及び混獲など

資料による漂着死体の記録は残っていないが、聞き取り調査を行ったところ、漂着死体及び混獲の情報が得られたので表 166 及び表 167 に示す。漂着死体については 9 個体の情報が確認でき、そのうち種が確認できたのはアカウミガメの 2 個体であった。性別は 9 個体とも不明であり、甲長に関してはアカウミガメ 1 個体で記録されていた(甲長 82cm)。混獲については比較的多くの情報が集まり、豊北町や油谷町(川尻漁港)では毎年、定置網やたて網に入るウミガメが確認されている。混獲されたウミガメの情報では種が確認されていないものが多く、1975 年以降、混獲されたウミガメ 32 個体のうち 25 個体は種が不明である(78.1%)。性別や甲長については全個体確認されていない。漁法別では、定置網で 12 個体(37.5%)、底引き網で 8 個体(25.0%)、たて網で 6 個体(18.8%)、刺網で 1 個体(3.1%)、その他及び不明で 5 個体(15.6%)がそれぞれ混獲されている。1997 年にたて網で混獲された 1 個体(種不明)は入網した後に逃げたが、他の 31 個体では混獲後の状況について確認されていない。

表 166. 山口県におけるウミガメ漂着死体数(聞き取り調査より)

	1989 年	1994 年	1995 年	1997 年	1998 年	計
アカウミガメ	1			1		2
種不明		2		1	4	7

性別は全個体不明

表 167. 山口県における漁業によるウミガメ混獲状況(聞き取り調査より)

	1975	1989	1991	1993	1995	1996	1997	1998	1999	不明	計
アカウミガメ					1				1	3	5
タイマイ									1		1
種不明	2	2	1	2	1	2	1	10	4	1	26

性別は全個体不明

### 4) 上陸確認現地調査結果

本調査は実施していない。

### 5) 上陸・産卵砂浜環境調査結果

#### ・上陸・産卵砂浜環境の概要

山口県における上陸実績のある 3 つの砂浜の環境は、人工構造物として堤防、消波ブロック等が設置されている。震源活動の状況は、海水浴場、サーフィン場として利用され、車等の進入は少ない状況である。ゴミの漂着状況は、木材、漁具及びプラスチック等の漂着が非常に多く、特に、外海に面する豊北町角島の小浜、油谷町大浜においては砂浜一面を覆っている状況である。夜間の街灯及び車輻灯は、砂浜には影響のない程度である。

#### ・調査実施方法

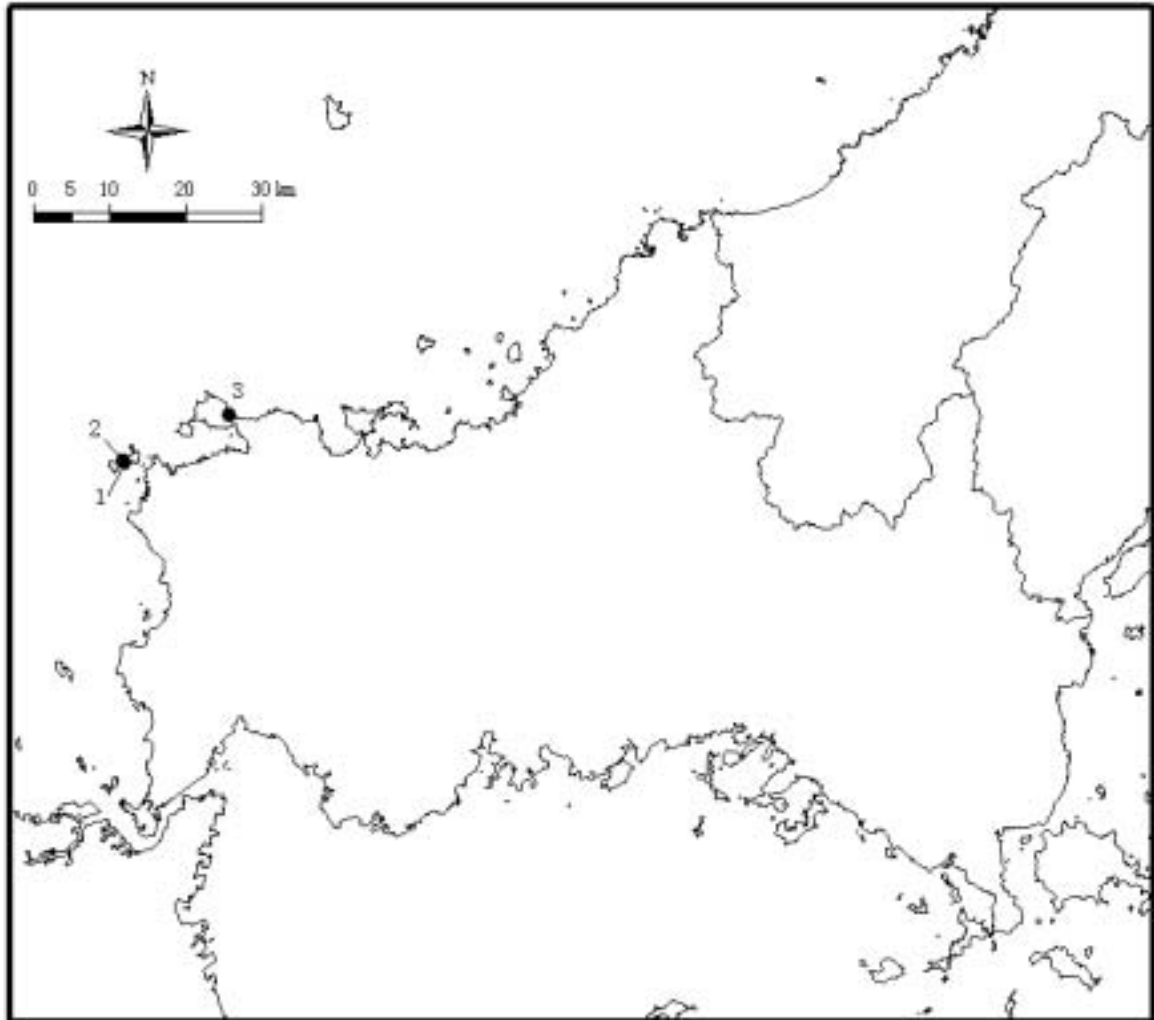
山口県の漁業協同組合に対してのアンケート調査、関係大学・水族館・博物館への聞き取り調査、現地聞き取り調査及び文献等の収集を行い、現地調査を実施した。

## 6) 資料リスト

著者名 調査主体	発表年 発行年	論文名・報告書・書名	掲載誌名 発行所名	巻数 ページ
田中 浩	1990	山口県の自然 長門市深川湾内の漂着生物	山口県立博 物館	23～24

## 7) 担当者リスト

氏 名	所 属
中司 正樹	山口県環境生活部自然保護課自然保護係
後藤 益滋	財団法人 山口県予防保健協会
上田 裕三	
若林 芳典	
青木 信彦	



凡例  
● 調査地点

調査区 番号	砂浜名
1	田無手浜
2	小浜
3	大浜

調査地点一覧(山口県)

## (26) 島根県 調査年：1998年

### ● 県下の海岸状況

海岸延長距離	853.44km	うち島嶼域	431.25km
自然海岸砂浜	54.93km	うち島嶼域	6.81km
半自然海岸砂浜	29.78km	うち島嶼域	2.81km
産卵海岸の合計	84.71km	うち島嶼域	9.62km

### ● 上陸・産卵砂浜実績調査

対象地区数	7区	対象海岸数	7	対象海岸距離	9.73km
産卵地区数	6区	産卵海岸数	6	産卵海岸距離	9.50km

#### 1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

島根県においてウミガメ類が目撃されることは極めて希である。又、過去に本格的なウミガメの調査が実施されたことがなく、情報が不足しているのが現状である。そのため、各種情報を得る手段として次の資料などを調査した。

- ・ 島根県景観自然課が所有する情報
- ・ 島根県水産試験場が所有する情報
- ・ 島根県漁業管理下が所有する情報
- ・ 各市町村が所有する各種資料
- ・ 過去の新聞報道

表 168 に島根県におけるウミガメ類の上陸及び産卵状況を示す。得られた情報では1980年代からこれまでの間に11上陸あり、そのうち7産卵が確認された。又、上陸海岸は八束郡美保関町から那賀郡三隅町までと、ほぼ県下全域に及んでいる。ただし、隠岐諸島ではその実績を確認することができなかった。上陸したもののうち、8頭が種不明であるが、周辺県やこれまでの日本におけるウミガメ情報から、アカウミガメだと断定できるだろう。報告書では、県下でアオウミガメ、タイマイが定置網で混獲されてい

表 168. 島根県におけるウミガメ類の上陸及び産卵状況

調査区	海岸名	上陸	産卵	市町村	種	備考
1	手酌海岸	1	1	美保関町	不明	1980年代に1上陸1産卵
2	猪目海岸	1	1	平田市	不明	1983年に1上陸1産卵
		1	不明		不明	1980年代に1上陸
3	長浜海岸	1	1	出雲市	アカ	1997年に1上陸1産卵
		1	1		不明	1984年に1上陸1産卵
4	小田砂原海水浴場	1	1	多伎町	不明	1986年に1上陸1産卵
5	浅利海岸	1	0	江津市	アカ	1987年に1上陸未産卵
		1	1		不明	1988年に1上陸1産卵
6	国府海岸	1	1	浜田市	アカ	1989年に1上陸1産卵
7	松原海岸	2	0	三隅町	不明	1987-1988年に各1上陸のみ

るため、産卵する可能性が高いと示唆している。しかし、この混獲と産卵とは別の問題であるので、これら両種は産卵のために来遊しているわけではない。この報告書の資料の記録としてあるアオウミガメの北限は、鹿児島県の屋久島である。島根県下では、約20年ほどの間に7産卵であるから、年間平均産卵数は、0.35産卵となるが、1990年代は1産卵しかないことから、今後県下でウミガメが上陸するのは非常に希なことだと推測される。

島根県の海岸長は853.44kmあるが、そのうち島嶼部が431.25km占める。ウミガメ類が産卵可能な海岸は84.71km(9.9%)であるが、今回調査した産卵海岸は7海岸で9.73km(11.5%)である。松原海岸では産卵はなかったものの、2上陸が1987年と1988年にみられている。

## 2) ふ化状況調査

記録なし。

## 3) 漂着・漂流及び混獲など

漂着死体に関する記録は1981年に浅利海岸に漂着した1個体だけであり、その個体に関する種及び性別、甲長の記録はない。また、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイが定置網などで混獲された実績があるとのみ記載されている。

## 4) 上陸確認現地調査結果

本調査は実施しなかった。

## 5) 上陸・産卵砂浜環境調査結果

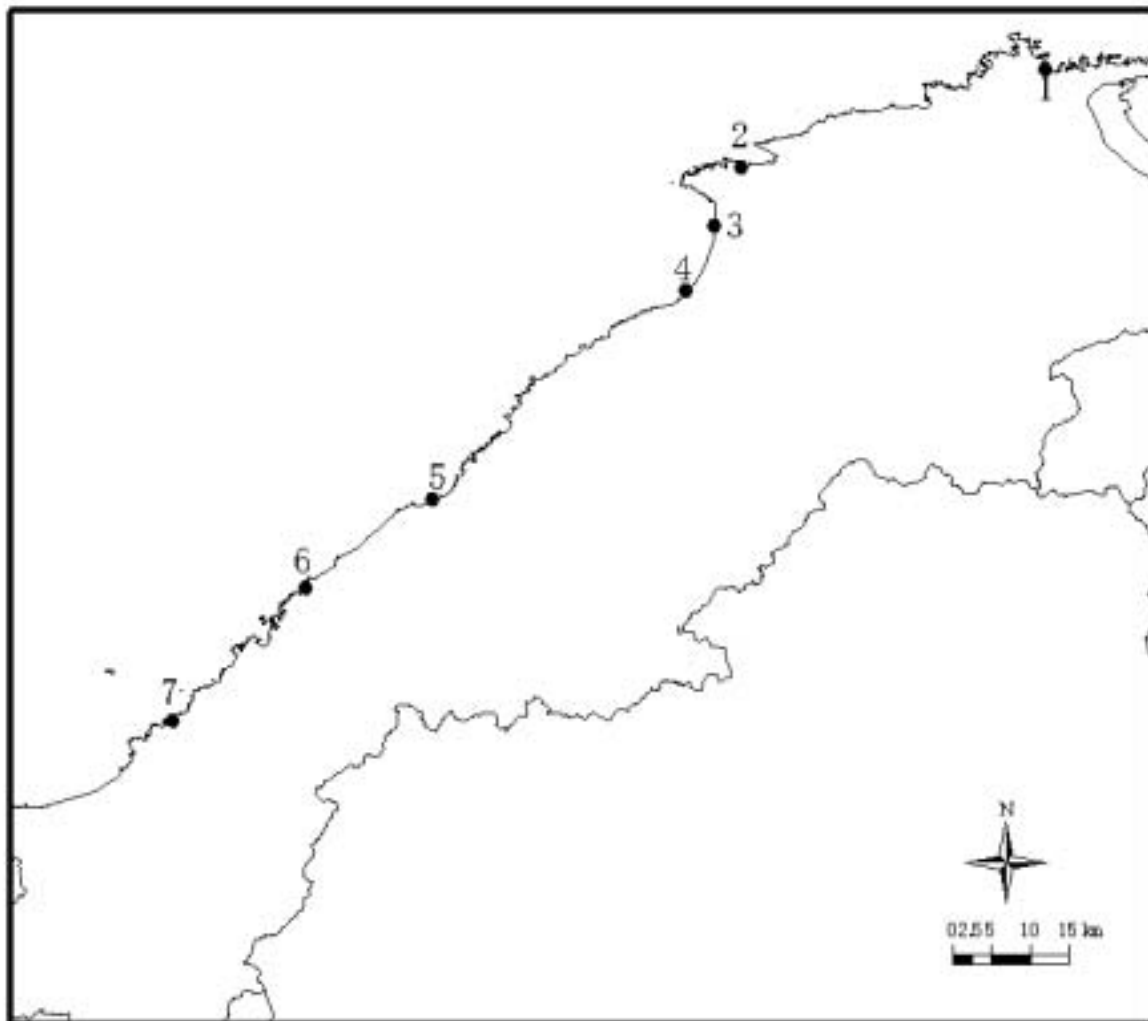
- ・砂浜における人工構造物について、浜前面の海面には漁業施設やテトラポット等が設置してある個所がおおくあったが、浜内にはほとんど見受けられなかった。
- ・人間活動の状況については、ほとんどの砂浜が海水浴場として利用されている。
- ・ゴミの漂着状況は、すぐに見つけることができるが、一部を除き比較的少なかった。
- ・夜間の灯火についてはほとんどなく、道路に面した砂浜で車両灯程度であるが、交通量も少ないため影響は比較的小さいものと考えられる。ただし、小田砂原海水浴場では、1998年度に、隣接している国道9号沿いに道の駅が砂浜と一体的に整備され、これに伴いその建築物や街灯などの灯火がある。また、道の駅の整備にあわせ、砂浜がビーチクリーナーで定期的に清掃されるようになった。
- ・ウミガメ類に関する調査・保護活動及び保護・保全指定状況については、当県においては該当がない。

## 6)資料リスト

著者名 調査主体	発表年 発行年	論文名・報告書・書名	掲載誌名 発行所名	巻数 ページ
水産庁資源生産推進部漁業資源課		海亀の採捕等の実態調査	島根県農林水産部漁業管理課の報告書からデータ抽出	
環境庁	1975	第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(両生類・は虫類)		
環境庁	1988	第3回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(両生類・は虫類)		
環境庁自然保護局	1993	第4回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(両生類・は虫類)		

## 7)担当者氏名

氏名	所属
佐藤 仁志 小島 晴雄 渡部 浩二 葭矢 崇司	島根県環境生活部景観自然課

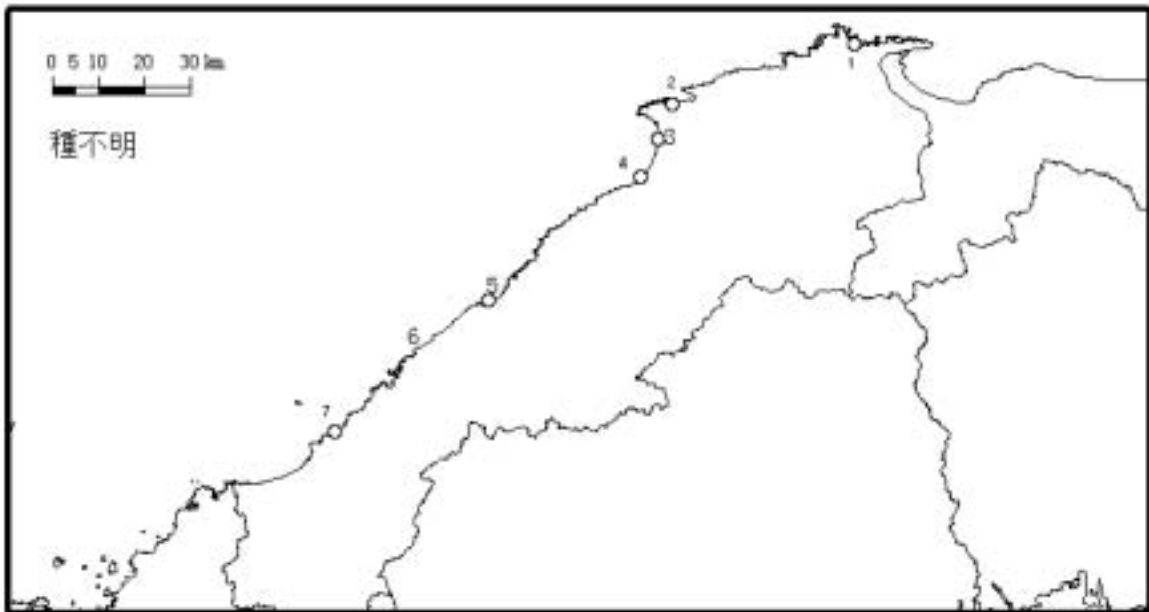
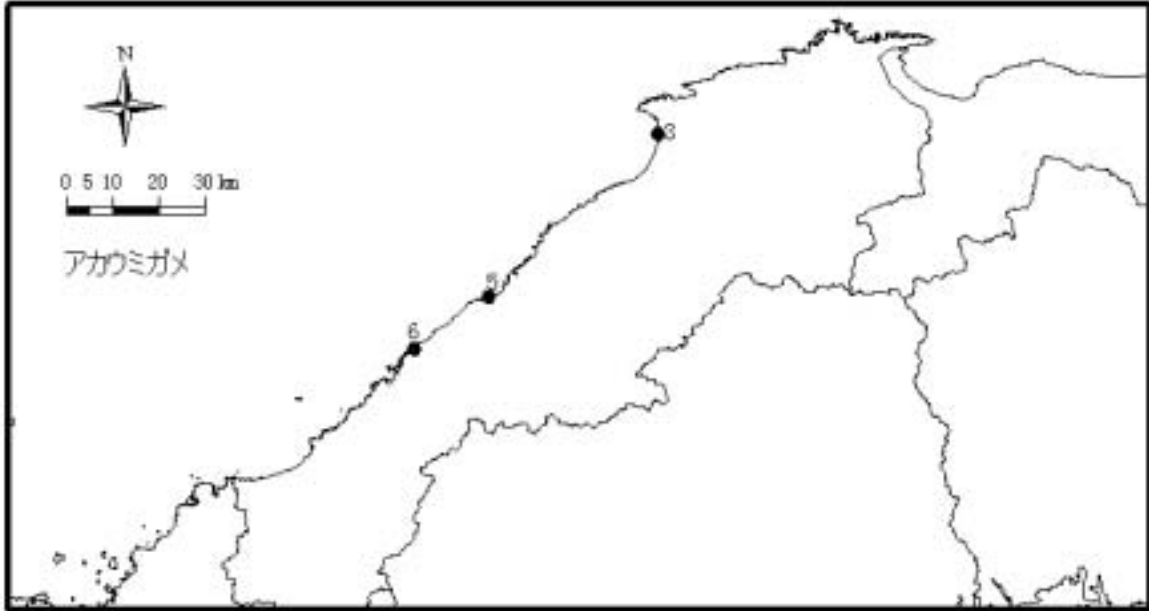


凡例  
● 調査地点

調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名
1	千酌海岸	5	浅利海岸
2	猪目海岸	6	国府海岸
3	長浜海岸	7	松原海岸
4	小田砂原海水浴場		

調査地点一覧(島根県)





凡例	
アカミガメ	● 上陸記録あり
不明	○ 上陸記録あり

ウミガメ上陸地点(島根県)

## (27) 鳥取県 調査年：1998年

### ● 県下の海岸状況

海岸延長距離	149.64km	うち島嶼域	22.97km
自然海岸砂浜	43.48km	うち島嶼域	0km
半自然海岸砂浜	23.31km	うち島嶼域	0km
産卵海岸の合計	66.79km	うち島嶼域	0km

### ● 上陸・産卵砂浜実績調査

産卵地区数	2区	産卵海岸数	2	産卵海岸距離	1.88km
産卵地区数	1区	産卵海岸数	1(現在、埋め立てられ護岸となっており計測不能)		

### ● 上陸確認現地調査

調査地区数	10区	調査海岸数	10	調査海岸距離	9.13km
産卵地区数	0区	産卵海岸数	0	産卵海岸距離	0km

#### 1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

鳥取県内において産卵が確認されているウミガメの種は、アカウミガメのみである。これまでに産卵が確認された事例は3例ある。いずれも上陸跡や産卵が確認されたものではなく、全て産卵巣から脱出直後の稚亀が海に入るまでの間に、発見されたものである。これら3例の事例を表169に示す。これら事例以外に足跡や上陸中のカメを発見したとの情報は全くない。過去27年間で3産卵みられただけである。

鳥取県の海岸長は149.64kmであり、そのうち66.79km(44.6%)がウミガメ類の産卵可能な海岸と考えられる。これまでに産卵が確認された海岸の長さは1.88km(2.8%)と現在埋め立てられた福定海岸である。護岸がそのまま海岸距離だとするとおよそ0.9kmであるので、ウミガメ類が鳥取県で利用する海岸は3kmほどであると解釈して良いと思われる。

表169. 鳥取県におけるアカウミガメの稚亀の発見事例

事例	発見年月日	発見場所
1	1972.09.08	境港市福定町海岸
2	1982.09.28	岩美町陸上海岸
3	1989.10.31	岩美町羽尾海岸

#### 2) 脱出状況調査

記録なし。

### 3) 漂着・漂流及び混獲など

1970年以降、10個体の漂着死体が記録されており、その内訳はアカウミガメ4個体(40.0%)、アオウミガメ1個体(10.0%)、タイマイ2個体(20.0%)、オサガメ1個体(10.0%)、ヒメウミガメ2個体(20.0%)となっている(表170)。性別と直甲長に関してはどの個体においても記録されていない。

表170. 鳥取県におけるウミガメ漂着死体数

	1970	1972	1973	1975	1996	計
アカウミガメ		1	2		1	4
アオウミガメ			1			1
タイマイ	1		1			2
オサガメ			1			1
ヒメウミガメ				1	1	2

性別は全個体不明

### 4) 上陸確認現地調査結果

既存資料及び聞き取り調査を行った。既存資料は鳥取県立博物館が保管する各資料を基にこれまでの報告類の再検討を行った。その結果、鳥取県内では、過去産卵実績がある3海岸と漂着記録のある8海岸を今回の調査の基本対象とすることとした。これら11海岸について、付近住民や漁業関係者及び学識有識者から聞き取り調査を行った。また、これら全部の海岸の足跡調査も行った。調査を実施した海岸リストを表171で示す。本調査ではウミガメ類の上陸及び産卵は確認できなかった。表2中にある福定町の海岸はかつて、産卵が記録された場所であったが、現在埋め立てられて護岸となっている。その確認のために調査対象海岸としている。海岸の上陸確認調査は10海岸で9.13kmの範囲で行われた。

表171. 本調査対象海岸リストと調査結果

調査地区	海岸名	上陸確認	海岸距離	市町村名
1	陸上海岸	0	1000	岩美町
2	羽尾海岸	0	875	岩美町
3	大谷海岸	0	575	岩美町
4	福部海岸	0	850	福部村
5	十六本松海岸	0	725	鳥取市
6	賀露町海岸	0	775	鳥取市
7	伏野海岸	0	875	鳥取市
8	白兔海岸	0	875	鳥取市
9	宝木海岸	0	1225	気高町
10	大谷海岸	0	1350	大栄町
11	福定町海岸	0	-	境港市

\*大谷海岸は岩美町と大栄町にある。

### 5) 上陸・産卵砂浜環境調査結果

鳥取県の海岸はほぼ東西に並び、冬の強い季節風により海岸部に砂が堆積しやすい地形となっている。そのため、海岸線の総延長距離約130kmのうち、約60kmが砂丘地また

は砂地海岸である。

近年は、港湾施設の改良や付帯施設の整備など人口構造物が増加している。また一方で、海水浴や海洋・海岸レジャーなど直接的に海岸地域と接する機会も増加している。このような状況の下で、県内の砂浜海岸には海岸利用者による投棄ゴミや波浪や季節風による漂着ゴミが目立つ。これに対しては、行政や各自治体およびボランティア等による海岸清掃や漂着ゴミ調査および美化意識向上のために種々の取り組みが行われている。

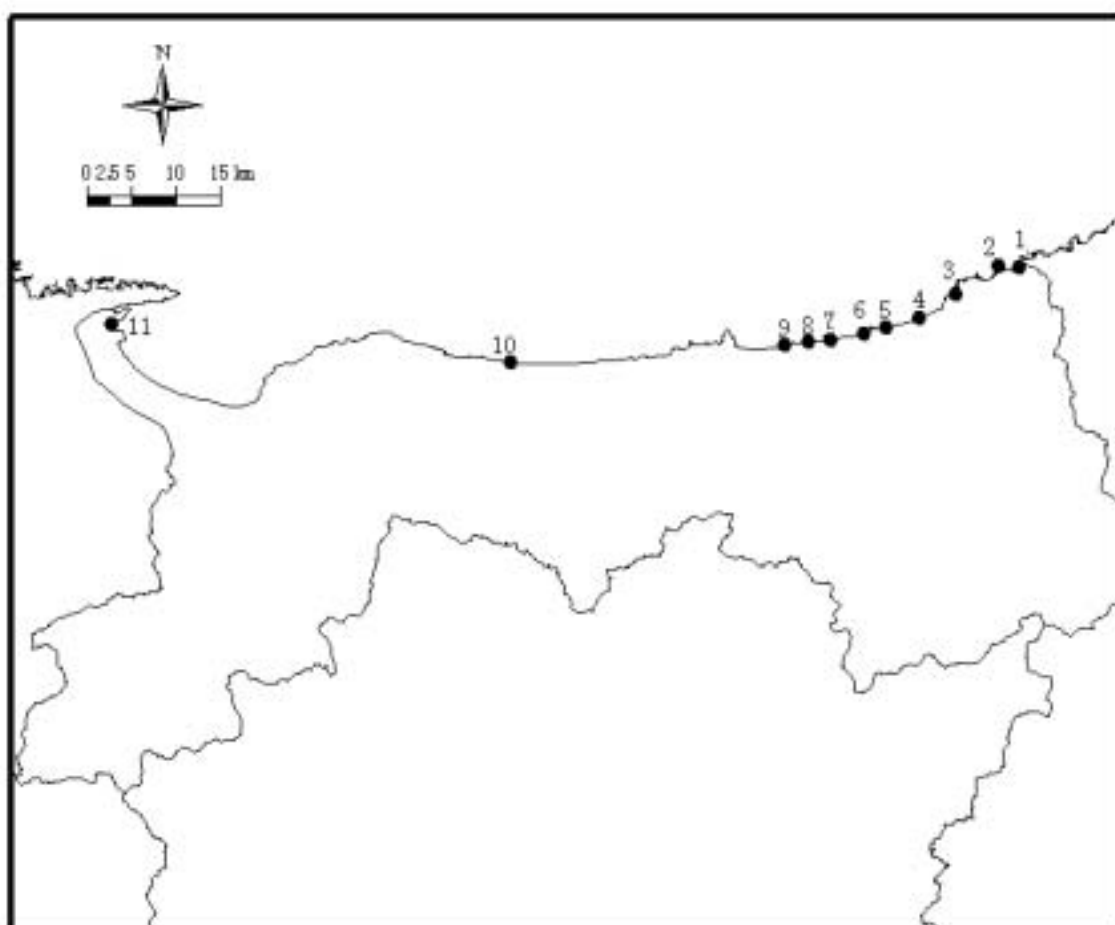
過去にウミガメの産卵実績のある砂浜のうち、境港市福定町海岸は、近年の環境変化により汀水線がコンクリート化している部分が多く、今後の産卵活動は望めない。また、岩美町陸上海岸と同町羽尾海岸は、自然度の高い砂浜が残っており、産卵場所としての可能性を残していると推測できる。

#### 6) 資料リスト

著者名 調査主体	発表年 発行年	論文名・報告書・書名	掲載誌名 発行所名	巻数 ページ
清末 忠人	1972	山陰沖に回遊したアカウミガメ	鳥取県立博物館 「郷土と博物館」	18-1 p. 29-31
清末 忠人	1975	1975年、話題の植物と動物	鳥取県立博物館 「郷土と博物館」	22-1 p. 5-10
鳥取県立博物館		資料台帳		

#### 7) 担当者氏名

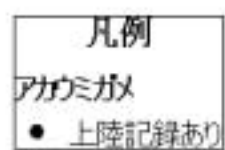
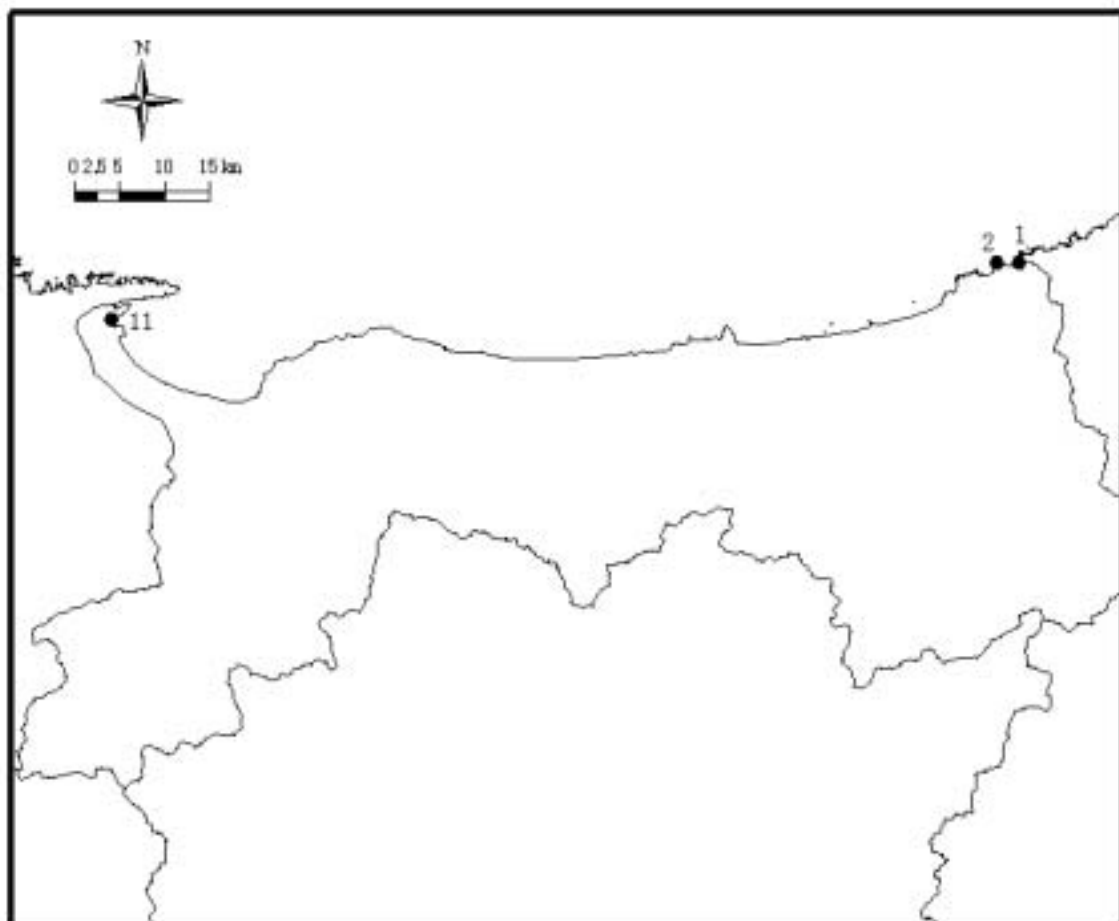
氏名	所属
安藤 重敏 清末 幸久	鳥取県立博物館学芸員課自然係



凡例  
● 調査地点

調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名
1	陸上海岸	7	伏野海岸
2	羽尾海岸	8	白兔海岸
3	大谷海岸	9	宝木海岸
4	福部海岸	10	大谷海岸
5	十六本松海岸	11	福定町海岸
6	賀露沖日本海		

調査地点一覧(鳥取県)



アカウミガメ上陸地点(鳥取県)

## (28) 京都府 調査年：1999年

### ● 県下の海岸状況

海岸延長距離	322.41km	うち島嶼域	20.12km
自然海岸砂浜	18.27km	うち島嶼域	0km
半自然海岸砂浜	18.59km	うち島嶼域	0km
産卵海岸の合計	36.86km	うち島嶼域	0km

### 1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

京都府の日本海沿岸は、山陰海岸国立公園や若狭湾国定公園の区域が含まれた福井県境から兵庫県境に至るまで、延べ230kmにも及び、丹後半島を含めリアス式海岸を形成し、鳴き砂で有名な琴引浜やオオミズナギドリの生息地として知られる冠島があるなど、全国的にも貴重な自然環境となっている。また、良好な漁場や海水浴場にも恵まれた地域である。

多くの漁業関係者や水産試験場、大学、役場等で面接による聞き取り調査を行ったが、京都府の日本海沿岸にわたって、ウミガメ類が上陸及び産卵状況を示す情報は得られなかった。ただし、伊根町の浦嶋神社の宮司によると、20年ほど前に本庄海岸でオサガメの産卵とふ化を地元の人々が見ているとの証言がある。それ以降はウミガメ類の産卵はみられていない。ウミガメの種は別として、かつて京都府下でも実際にウミガメが上陸し、産卵していたことが伺える。また、今回の聞き取り調査の際に、京都大学農学研究科海洋生物資源学講座の坂本亘教授は、ウミガメが北限近くで産卵し無事にふ化するためにはふ化の温度確保のために砂鉄を含んだ黒い砂が必要であるが、京都府には砂鉄を含んだ砂浜はほとんどないと言っている。本庄海岸は昭和46、47年に高波が襲い、海岸の砂がなくなり、その後防波堤やテトラポットを建造設置したため、砂が戻らなくなったが、以前は砂鉄を含んだ黒い砂浜だという証言があった。

京都府における全海岸長は322.41kmであり、そのうち36.86km(11.4%)がウミガメ類の上陸及び産卵する可能性がある砂浜として形成されている。島嶼部には海岸は存在しない。

### ・ 調査実施方法

京都大学農学部研究科海洋生物資源学講座、京都大学水産実験所、京都府水産事務所、京都府立海洋センター、舞鶴市教育委員会、宮津市企画経済部農林水産課、網野町役場、丹後町役場、伊根町役場、久美浜教育委員会、浦嶋神社及び漁業協同組合にそれぞれ面会を求め、6月上旬に聞き取り及び本年の上陸及び産卵状況、付加情報、漂着死体の状況などについて聴取すると共に、情報があれば直ちに連絡するように要請した。また、11月及び平成12年3月に再度面会を求め、結果の聞き取りについても行った。

※ 聞き取り調査を行った漁業協同組合

栗田漁業協同組合、湊漁業協同組合、網野町漁業共同組合本所、網野町漁業共同組合詰支所、三津漁業生産組合(網野町漁業共同組合島津支所)、間人漁業組合、竹野漁業組合、下宇川漁業組合、下宇川漁業協同組合袖志支所、本庄浜漁業協同組合、蒲入漁業協同組合、養老漁業協同組合の計 12 カ所

2) ふ化状況調査

記録なし。

3) 漂着・漂流及び混獲など

資料による漂着死体の記録は残っていないが、聞き取り調査を行ったところ、漂着死体または漁業による混獲などの情報が確認できている。

4) 上陸確認現地調査結果

調査対象種の上陸・産卵が確認されなかったため、本調査は実施しなかった。

5) 上陸・産卵砂浜環境調査結果

記録なし。

6) 資料リスト

記録なし。

7) 担当者氏名

氏名	所 属
下野 技師	京都府企画部 環境企画課 緑の環境推進係
井上 課長	京都府保健環境研究所 環境衛生課
山川 主任研究員	
池田 係長	京都府舞鶴保健所 衛生課 環境係
橋 技師	
蒲 係長	京都府宮津保健所 衛生課 環境係
嶋田 課長	
粉川 主査	京都府峰山保健所 衛生課 環境係



## (29) 福井県 調査年：1999年

### ● 県下の海岸状況

海岸延長距離	411.99km	うち島嶼域	8.90km
自然海岸砂浜	27.41km	うち島嶼域	0.64km
半自然海岸砂浜	39.88km	うち島嶼域	0km
産卵海岸の合計	67.29km	うち島嶼域	0.64km

### 1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

1970年から1998年度、福井県における上陸・産卵状況は情報がなく、上陸・産卵を確認する資料は得られなかった。また、1999年も、もしウミガメが上陸すれば周辺住民、漁業協同組合、学校などから情報が入り上陸及び産卵の確認ができるが、情報はなかった。

このような情報システムが存在するので、福井県でも過去にウミガメ類の産卵があった可能性が高いと考えられる。しかし、これまでウミガメに関する資料などの蓄積や保管はないものと思われる。

福井県の全海岸長は411.99kmであり、そのうち67.29km(16.3%)がウミガメ類の上陸及び産卵する可能性がある砂浜として形成されている。島嶼部の砂浜は0.64kmである。

### 2) ふ化状況調査

記録なし。

### 3) 漂着・漂流及び混獲など

1970年以降、10個体の漂着死体が記録されており、その内訳はアカウミガメ5個体(27.8%)、アオウミガメ2個体(11.1%)、タイマイ2個体(11.1%)、オサガメ8個体(44.4%)、ヒメウミガメ1個体(5.6%)となっている(表172)。福井県における漂着死体は冬場の水温低下による衰弱と北西の季節風によって生じた強い波浪による漂着がほとんどであり、衰弱して漂着したところを水族館で保護され、回復した個体も2個体確認された。また、1996年と1997年にはアカウミガメ小亀の漂着死体がそれぞれ1個体ず

表 172. 福井県におけるウミガメ漂着死体数

	1970	1971	1975	1979	1980	1981	1982	1996	1997	1999	計
アカウミガメ	1	1		1				1	1		5
アオウミガメ	1								1		2
タイマイ	2										2
オサガメ	2		1		2	1	1			1	8
ヒメウミガメ									1		1

性別は全個体不明

1997年のアカウミガメ1個体(小亀)とアオウミガメ1個体は衰弱し漂着したところを越前松島水族館に保護され、生き返った

つ記録されており(甲長 11cm と 11.5cm)、そのうち 1997 年に漂着した子亀(甲長 11.5cm)のほうは越前松島水族館に保護されて回復している。甲長の記録が残っている個体は 1997 年に坂尻に漂着したアオウミガメ(甲長 73cm)、1997 年に同じく坂尻に漂着したヒメウミガメ(甲長 57.2cm)、1999 年に岬海岸に漂着したオサガメ(甲長 136cm)の 3 個体であり、性別に関してはどの個体においても記録されていない。

4) 上陸確認現地調査

本調査は実施していない。

5) 上陸・産卵砂浜環境調査

記録なし。

6) 資料リスト

記録なし。

7) 担当者氏名

氏名	所	属
柴田 至旦	福井県海浜自然センター	

## (30) 石川県 調査年：1999年

### ● 県下の海岸状況

海岸延長距離	581.91km	うち島嶼域	88.30km
自然海岸砂浜	48.86km	うち島嶼域	3.06km
半自然海岸砂浜	0km	うち島嶼域	0km
産卵海岸の合計	48.86km	うち島嶼域	3.06km

### ● 上陸・産卵砂浜実績調査

産卵地区数	4区	産卵海岸数	4	産卵海岸距離	1.84km
-------	----	-------	---	--------	--------

#### 1) 上陸・産卵砂浜実績調査結果

石川県内において産卵が確認されているウミガメの種は、アカウミガメのみである。1962年から1999年までに4産卵確認されている(表173)。これら産卵はいずれも付近の住民らによって偶然に発見されたものである。

表173. 石川県内におけるアカウミガメの上陸・産卵・ふ化事例

事例	発見年月日	発見場所	発見時間	産卵数	ふ化	甲長
1	1962.10.08	内灘町内灘海岸	12時	不明	あり	不明
2	1979.07.01	加賀市片山津海岸	22時30分	なし	なし	約80
3	1982.07.08	珠洲市折戸海岸	04時50分	約100	なし	約80
4	1983.07.13	門前町黒島海岸	04時50分	68	なし	約100

石川県における全海岸長は581.91kmであり、そのうち48.86km(8.4%)がウミガメ類の産卵する可能性がある砂浜が形成されている。島嶼部の海岸は砂浜のうちの3.06kmである。過去に産卵が確認された4海岸の合計海岸長は1.84km(3.8%)であった。石川県におけるウミガメ類の産卵は、1962年から1983年までの22年間に4回であり、それ以降本調査が行われた1999年までの16年間は産卵が観察されていない。

#### 2) ふ化状況調査

石川県において記録された4産卵のうちふ化したものは1962年の1産卵のみであるが、ふ化率などの詳細は不明である。他の3産卵はふ化していないが、1983年のものが卵58個と後期胚死亡20数個体(資料写真からの判定;Miller;1985によるステージ30)の標本が保管されている。そのことから、ふ化寸前までは発生が順調に行われていたことが伺える。しかし、これらの胚が死亡した原因については不明である。

#### 3) 漂着・漂流及び混獲など

1952年から1998年までの資料と松村の未発表資料を含めて、石川県の海岸及び海域

で漂着や採捕されたウミガメ類は、アカウミガメ 43 頭、アオウミガメ 21 頭、タイマイ 11 頭、ヒメウミガメ 1 頭、オサガメ 24 頭の計 5 種 100 頭となっている。

資料による漂着死体の記録は残っていないが、1977 年以降、アカウミガメ 7 個体の混獲が記録されている(表 174)。これら 7 個体の平均甲長は 89.5cm であり、性別や混獲後の状況は不明となっている。また、7 個体とも 5 月から 9 月の夏場に定置網によって混獲されている。

表 174. 石川県における漁業によるウミガメ混獲状況

種	混獲日	場所	漁法	混獲後の状況	甲長
アカウミガメ (性別不明)	1977 年 8 月 31 日	加賀市塩屋海岸沖	定置網	不明	90.0cm
	1982 年 7 月 28 日	志賀町百浦海岸沖	定置網	不明	80.0cm
	1982 年 9 月 14 日	七尾市百浦海岸沖	定置網	不明	86.5cm
	1983 年 5 月 15 日	志賀町百浦海岸沖	定置網	不明	80.0cm
	1987 年 6 月 13 日	羽咋市滝海岸沖	定置網	不明	84.0cm
	1988 年 6 月 10 日	志賀町安部屋海岸沖	定置網	不明	106.0cm
	1992 年 6 月 3 日	七尾市鵜浦海岸沖	定置網	不明	100.0cm

#### 4) 上陸確認現地調査結果

本調査は実施していない。

#### 5) 上陸・産卵砂浜環境調査結果

調査を実施した 10 地区の海岸には人工構造物による何らかの構築がなされており、古くからの自然な砂浜海岸は減少している。そのほとんどが海岸の浸食を防止するための堤防や、波浪を防ぐためのテトラポット類の設置である。

これまでにアカウミガメが産卵のために上陸したことのある内灘海岸は、RV 車によるサーキット化が夜間でも日常化し、多種多様な海浜レジャーの普及による弊害が深刻である。片山津海岸は、砂浜に礫が混入し、産卵上陸が不向きと思われる海岸に変貌したのが残念である。

一方、アカウミガメが能登半島に産卵上陸した折戸海岸と黒島海岸は、決して広くて長い浜ではない。しかし小規模な砂浜であるために、近年の交通量の増加による光害とゴミ投棄がみられ、上陸するのが難しいものと考えられる。

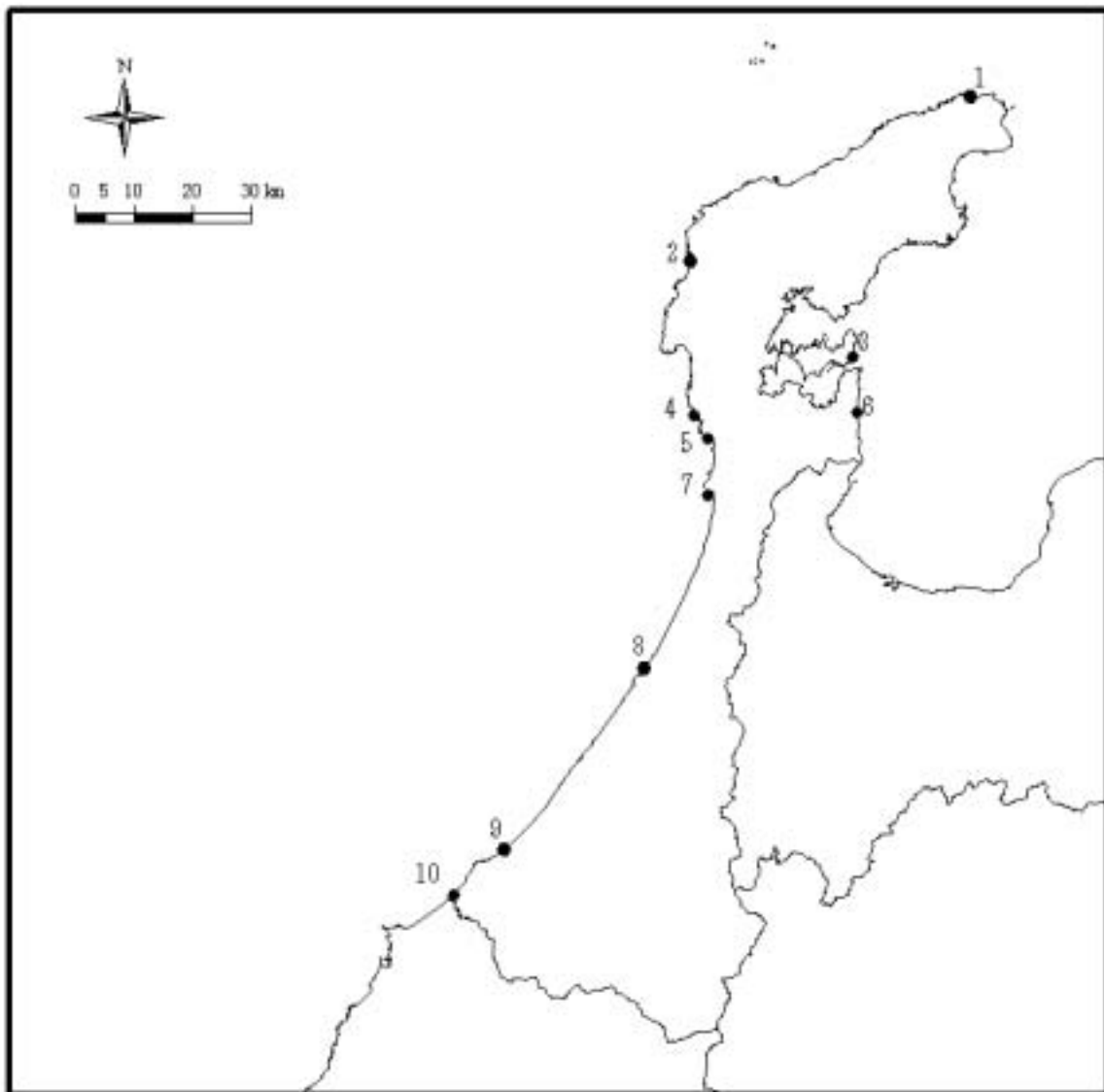
他方、加賀市塩屋海岸や片野海岸は、大きな砂浜域でありほとんど人の手が加えられていない自然度の高い海岸である。今後も、アカウミガメが産卵上陸する可能性の高い適地と思われる。

## 6) 資料リスト

著者名 調査主体	発表年 発行年	論文名・報告書・書名	掲載誌名 発行所名	巻数 ページ
藤野忠男	1952	日本海でタイマイ採集さる	採集と飼育	14(9):226-267
宮崎光二	1979	第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(両生・は虫類)石川県	環境庁	p. 4
西村三郎	1958	熱帯・亜熱帯性動物-特に魚類-の日本海への流入ならびにその内部における移動に関する一考察	日本海区水産研究所報告	(4):113-119
Nishimura	1964	Considerations on the migration of the Leatherback turtle, <i>Dermochelys coriacea</i> (L.), in the Japanese and adjacent waters.	Publ. Seto Mar. Biol. Lab.	12(2):61-73
西村三郎	1964	日本近海におけるオサガメの記録	生理生態	12:286-290
萩野洸太郎	1994	ウミガメの来る浜辺	自然人	(27):31-33
清水孝忠 熊野正雄	1965	爬虫類、能登半島学術調査	石川県	p. 264-265
徳本洋	1976	石川県の爬虫類	両性爬虫類愛好会誌	(6):5-11
徳本洋	1984	石川県におけるアカウミガメの産卵3例	両性爬虫類愛好会誌	(30):1-9
徳本洋	1989	日本海沿岸における稚アカウミガメの漂着をめぐって	爬虫両棲類学会誌	13(2):53-54
内田至	1981	わが国沿岸の海ガメ類の現状と話題	海中公園情報	(52):3-4
内田至	1981	アカウミガメ、日本の沿岸で産卵するウミガメの産卵生態	採集と飼育	43(9):472-476
内田至	1983	海ガメ入門(v)卵のふ化をめぐる問題点	海洋と科学	5(6):416-421
山下郁	1995	日本海におけるウミガメ類の来遊について	富山大学教育学部地理学教室年報	3:115-173
松村初男 宮崎光二	1996	ヒメウミガメの石川県への漂着と日本海沿岸における漂着記録再調	南紀生物	38(2):115-117
松村初男 山下郁	1996	石川県沿岸におけるウミガメ類	のと海洋ふれあいセンター研報	(2):29-38
松村初男	1996	ウミガメ類、石川県の両生・爬虫類	石川県	p. 61-72
松村初男	1997	重油被害と誤認された漂着海亀三例	自然人	(40):55
松村初男	1998	石川県沿岸に回遊してくるウミガメ類	自然人	(43):38-41

## 7) 担当者氏名

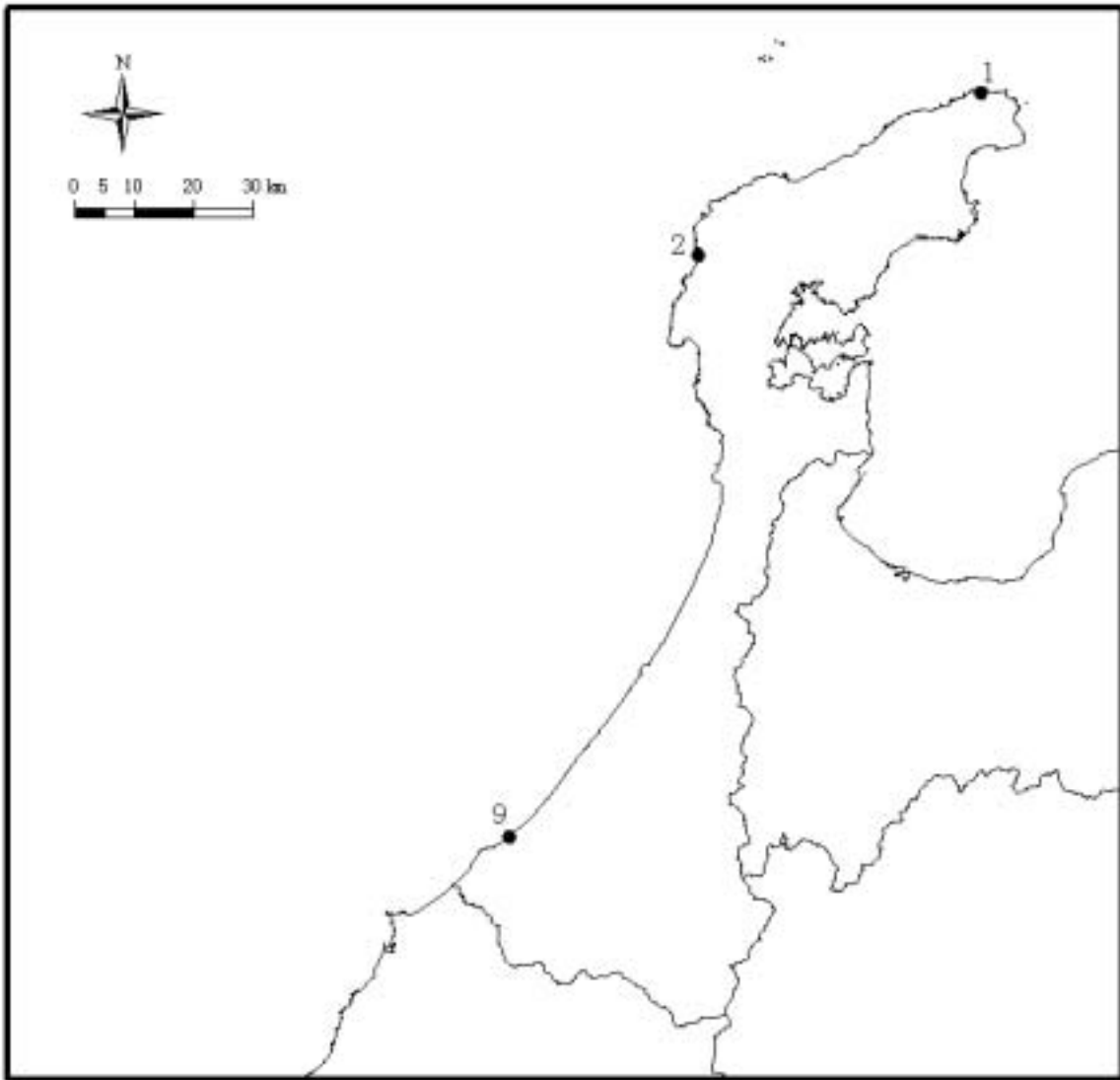
氏名	所属
松村 初男	石川県両生爬虫類研究会



凡例  
● 調査地点

調査区 番号	砂浜名	調査区 番号	砂浜名
1	折戸海岸	6	百海海岸
2	黒島海岸	7	滝海岸
3	鶴浦海岸	8	内灘海岸
4	百浦海岸	9	片山津海岸
5	安部屋海岸	10	塩屋海岸

調査地点一覧(石川県)



凡例	
アカミガメ	
●	上陸記録あり

アカウミガメ上陸地点(石川県)